

21 創立五十周年記念講堂・校舎の新築（昭和十年一月）

（欄外注記1）

（欄外注記2）

（欄外注記3）

<p>案起 昭和九年一月八日 主任（丸山印） （堀口印） （森田印） （宮崎印）</p>	<p>案起 昭和十年一月十日 主任（堀口印） （丸山印） （森田印）</p>
<p>学務部長（中島印） 学務課長（伊藤印）</p>	<p>部長 学務課長（伊藤印）</p>
<p>進 達</p>	<p>下 付</p>
<p>中央大学 校舎建築ノ件 右第三式經由印ヲ捺シ文部省 へ進達可然哉</p>	<p>同上ニ対スル指令 昭和十年一月七日 認可 右第四式經由印ヲ捺シ 上記学校 へ送付可然哉</p>

東專六二四号

中央大学

昭和九年十一月一日申請校舎建築ノ件認可ス

昭和十年一月七日

文部大臣 松田源治

昭和九年十一月一日

中央大学学長理事原 嘉道

東京府知事 香坂昌康殿

進達願ノ件

(欄外注記4) 別冊本大学講堂及教室建築認可申請書文部省ニ御進達被成下度此段申請候也

昭和九年十一月一日

中央大学学長理事原 嘉道

文部大臣 松田源治殿

(欄外注記5) 講堂及教室建築認可申請ノ件

今般本大学附属用地神田区駿河台三丁目拾番地ノ五ニ於テ本大学講堂及教室建築致度候ニ付御認可被下度別紙新築工事仕様書並図面及決議録抄本相添此段申請候也

決議録抄本

昭和九年七月十六日午後四時ヨリ中央大学ニ於テ臨時評議會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議シ午後六時散会セリ

当日出席シタル評議員ハ九十六名中

天野徳也氏外八十名ナリ

出席評議員名略

会長理事原嘉道氏ヨリ諸般ノ報告アリタル後

左ノ決議ヲ為シタリ

一、創立五十年記念校舎新築ノ件

御承知ノ如ク明年ヲ以テ創立滿五十年ニ相当致シマスノテ最モ必要緊急ノ施設ヲ為シ記念ニ致シタイト存シマス先程モ御報告申上マシタル如ク近年学生数年々増加致シテ参リマシテ現在ノ校舎テハ到底収容出来マセン幸ヒ昨年購入致シマシタ裏隣接地ノ約半分ヲ利用シテ記念講堂並ニ教室ヲ新築致シタイト存シマス御手許ニ配布致シマシタル建築設計明細書並ニ其処ニ出シテ置キマシタ設計図面御熟覽ノ上御賛同アランコトヲ願ヒマス
以下略
満場一致原案通り可決ス

昭和九年七月十六日

決議録署名者

天野徳也[㊟]

右決議録原本ト相違無之候

昭和九年十月三十一日

中央大学理事学長原 嘉道[㊟]

昭和九年度臨時費収支予算

収 入

第一款 借入金

三九五、〇〇〇

第一項 借入金 三九五、〇〇〇

支出

第一款 創立五十年記念講堂〔及教室〕^{〔加筆〕} 建築費

三九五、〇〇〇

第一項 創立五十年記念講堂〔及教室〕^{〔加筆〕} 建築費

三九五、〇〇〇

〔表紙〕

中央大学講堂新築工事要項説明書

中央大学講堂新築工事要項説明書

一 位置 現在校舍北側十一米道路ヲ隔テタル敷地一一〇〇坪ノ内五二〇坪内ニ建築ヲナスモノトス

二 連絡 校舍ト講堂トノ連絡ハ校舍北西隅階段室地階ヨリ十一米道路ノ地下約四・五米ノ深サニ幅員二・七米ノ

地下道ヲ設クルモノトス

三 規模 鉄骨、鉄筋混凝土造耐震耐火構造ニシテ一部地階付

四階建トシ、大講堂ノ収容人員ハ約五〇〇〇人、外

ニ教室大小十七室ヲ設ケ外観ハ現校舍トノ調和ヲ保ツ

四 人員 大講堂ノ収容人員内訳左ノ通りトス

階別	座席	傍聴	演壇	摘要
一階	一、五三人	一、三〇〇人	六人	一階ノ座席ニハ

五 平面

傍聴席ハ椅子ナシ其立チ得ラルル最大数字ヲ示ス

大講堂ヲ主トシ外ニ教室同附属室ヲ設ク

〔青色写真平面図参照〕

各階ノ面積左ノ通りトス

階別	講堂廊下階段	教室	倉庫自転車置場
二階	四八人	五〇人	
三階	三六人	一、三〇〇人	
合計	二、三九八人	二、九七〇人	六人
総計	五、三三四人		

階別	講堂廊下階段	教室	倉庫自転車置場
地階			五八〇平方米
一階	一、三〇〇平方米	三三六平方米	
二階	八九三 "	三三六 "	
三階	五九 "	三三六 "	
四階	三三 "	三三 "	
塔屋			階段 三 "
合計	二、三九八平方米	一、三五六平方米	六〇平方米
総計	四、七六六平方米（一、四七七坪）		

六 外観

校舍ニ類似色ノ人造石、洗出タイル、テラカッタヲ用ヒ西南二面ハ主トシテタイル、テラカッタヲ用ヒ玄関廻リニハ石材ヲ用フ。北東面ハ人造石洗出シ仕上トシ大体ニ於テ図書館ト同程度トス

七 内部

講堂内部ハ音響ノ完全ヲ期シ、床、天井ノ勾配、カーブ等ニ留意シ、材料モソノ目的ノ為ニ木材「ベニア」「テックス」「レザー」等ノ吸音材ト「ブラスター」ノ反響壁面トノ仕上トナス

床ハ着色「アスファルト」特別仕上トス、廻廊、天井壁ハ「テツキス」ヲ用ヒ開放ノ際ニ上記ノ目的ニ副フヘク考慮セリ

教室其他ハ大体ニ於テ現校舎程度ニシテ床ハ上記ノ着色「アスファルト」特別仕上ケトス

八 建具
外部廻リハ「スチールサツシュ」廻転及ヒ迂リ出シ式ニシテ玄関扉ハ「ブロンズ」内部入口扉ハ木製、講堂周囲ノ折疊式扉ハ木製「ドアーハンガー」吊及卷上「シャター」式トシテ特別ノ集会ノ場合廻廊ヲ含ム大集会ニ便ナラシム、講堂天井採光窓ハ鉄骨「ワイヤーグラス」嵌込ノ天窗ト鉄骨白色硝子嵌込ノ天井トノ二重トス。

九 電気工事 室内照明及電動機ニ用フル電力線ハ現在校舎内変電室ニ更ニ変圧機ヲ増設シ地下天井下ヲ鉄管ニ納メ配線シ講堂地階ニ至リ分電箱ヨリ各室ニ分岐ス。講堂内照明ハ室全体ノ間接照明ト筆記ノ為ニ各所ヨリ「スポットライト」式直接照明トヲ並用ス。教室ハ現校舎ニ準シ「コードヘンダント」式廊下階段等ハ天井直付半間接式トス、器具ハ凡テ実用ヲ主トシタル白オパール質硝子ヲ用フルモノトス。動力線ハ換気機、暖房、還水ポンプ及活動写真映写室ニ配線ス、電話電鈴ラヂオラウドスピーカー用トシテ配線ノミヲ行フモノトス。

十 椅子窓掛 講堂内椅子ハ一階ハ連結式筆記机付、二階ハ筆

記机無シトス。鑄鉄フレーム床固定ニシテ「ベイヤ」板腰掛起倒式筆記机モ同様トス
窓掛ハ天窗ニ黒幕張及控室ニ「ブラインド」ヲ取付クルモノトス。

十一 地下道 校舎ト講堂ヲ連結スル地下道ハ市役所地下利用規定ニ準シ地盤面下七尺以上ノ深サニ築造スルモノトス。

構造ハ鉄筋混凝土造、内外共防水工事ヲ施シ内外ハ白タイル張りトス。
排水ハ万一ノ場合ヲ考慮シ中心ニ「ピット」ヲ設ケ之ニ集水シ手動ニテ排水スルモノトス。

十二 竣工期間 工事着手ノ日ヨリ滿十ヶ月間トス。

創立五十年紀念講堂建築費予定

一金參拾九万五千元

内 訳

講堂及教室建築工事費(地下道築設共)	二七〇、〇〇〇・〇〇
電気工事	二六、五〇〇・〇〇
暖房換気工事	二八、〇〇〇・〇〇
器具其他	二八、五〇〇・〇〇
衛生工事	一一、〇〇〇・〇〇
其他雜費	三〇、〇〇〇・〇〇

借入償還ノ方法

一、借入金参拾九万五千円ハ出来得ル限り本大学資産中ヨリ彼
 此繰替流用シ不足ノ場合ニ於テ銀行ヨリ借入ノ予定
 一、償却参拾九万五千円ハ左記ノ如ク寄附金並本大学剰余金ヲ
 テスル予定

(1) 寄附金貳拾貳万五千円

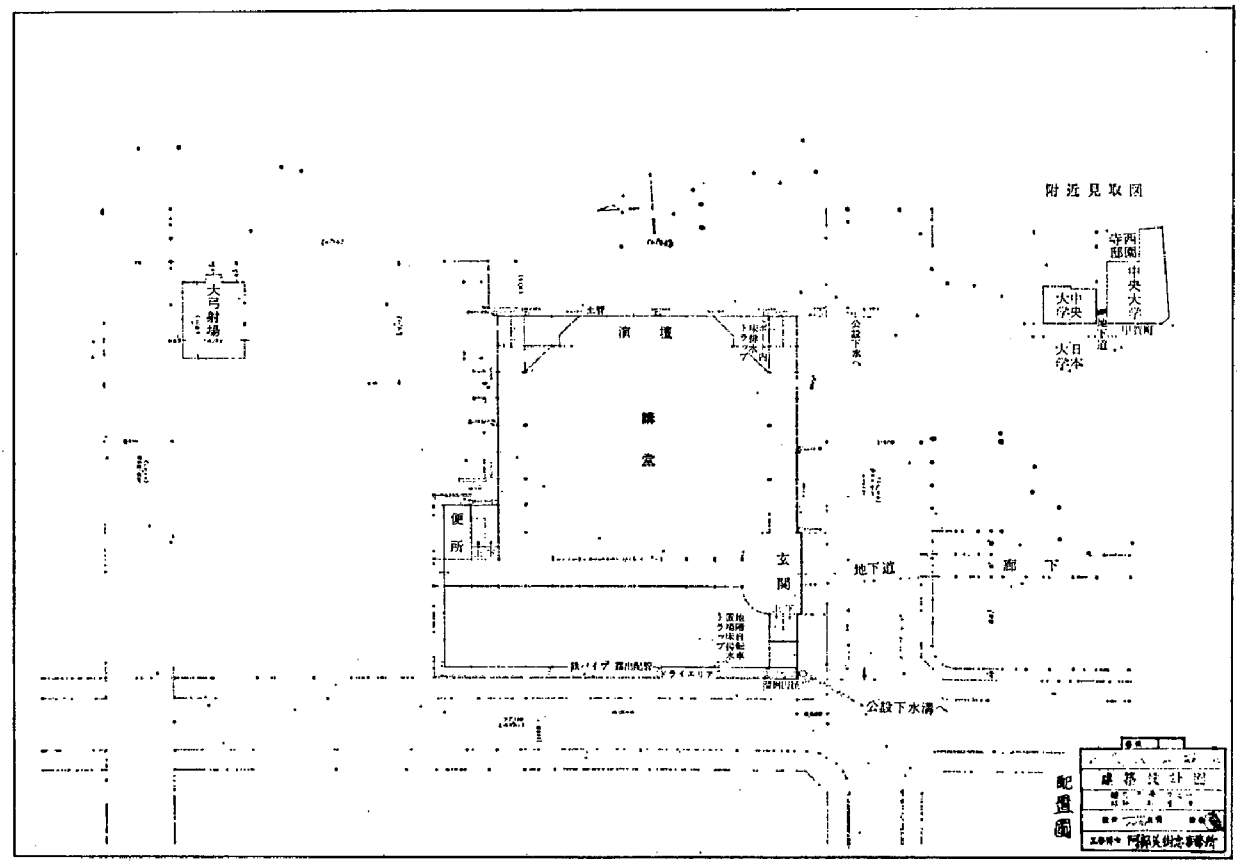
但現在学員壹万五千名壹名平均拾五円宛ノ見込

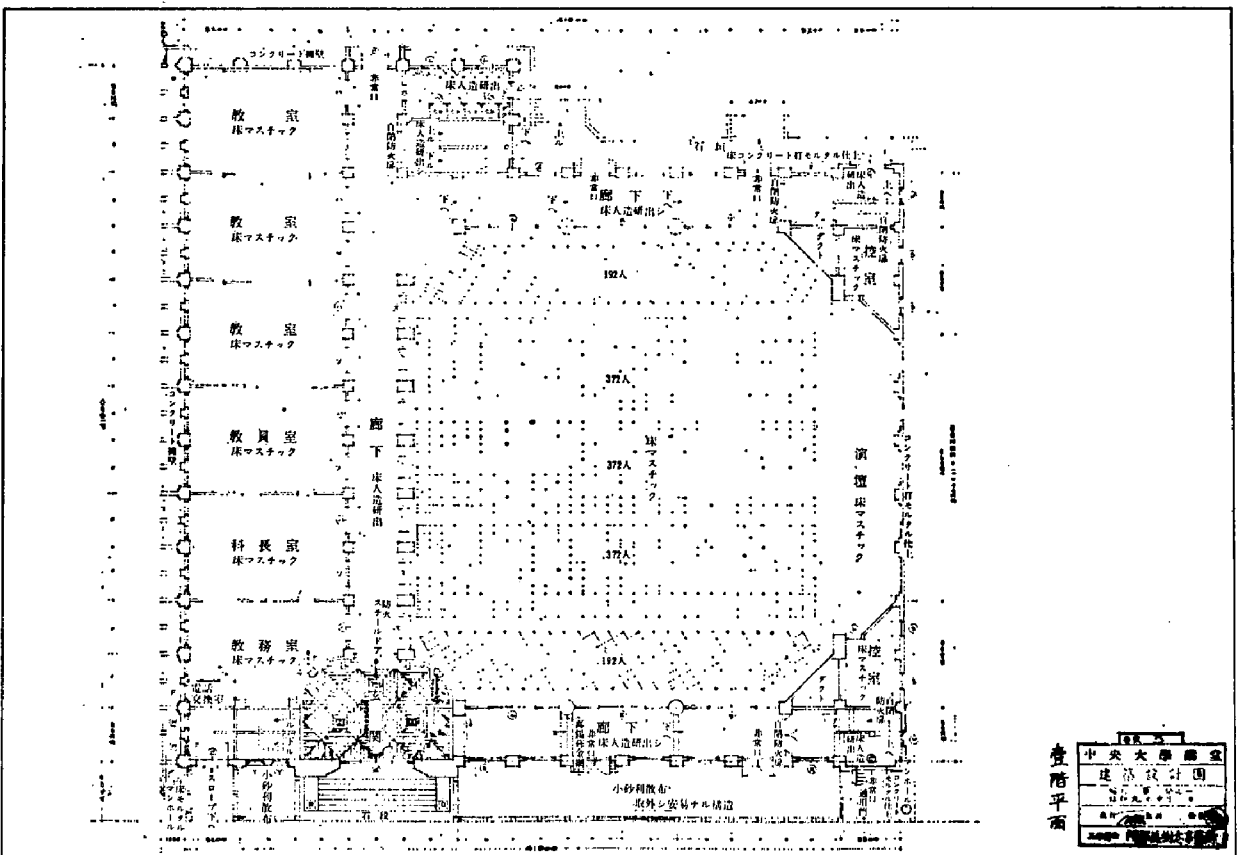
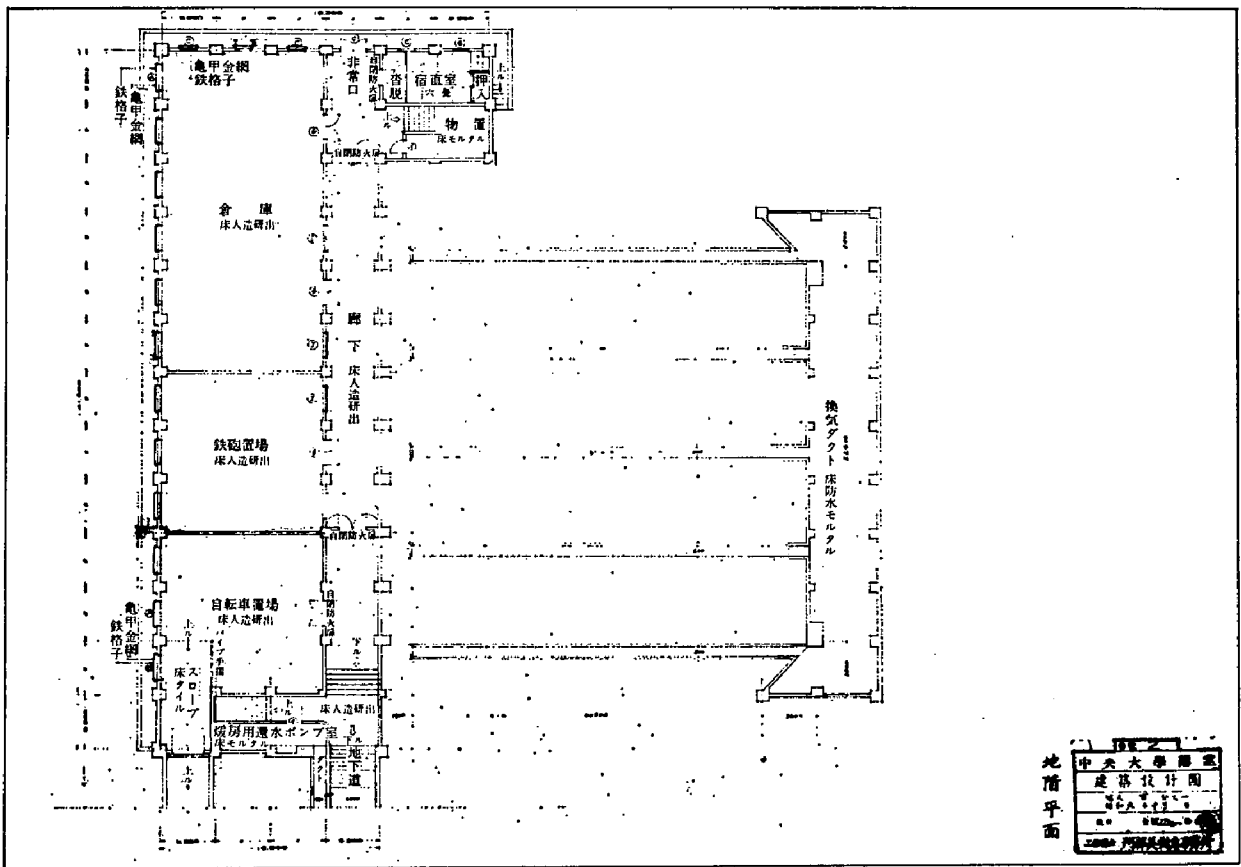
(2) 本大学剰余金拾七万円

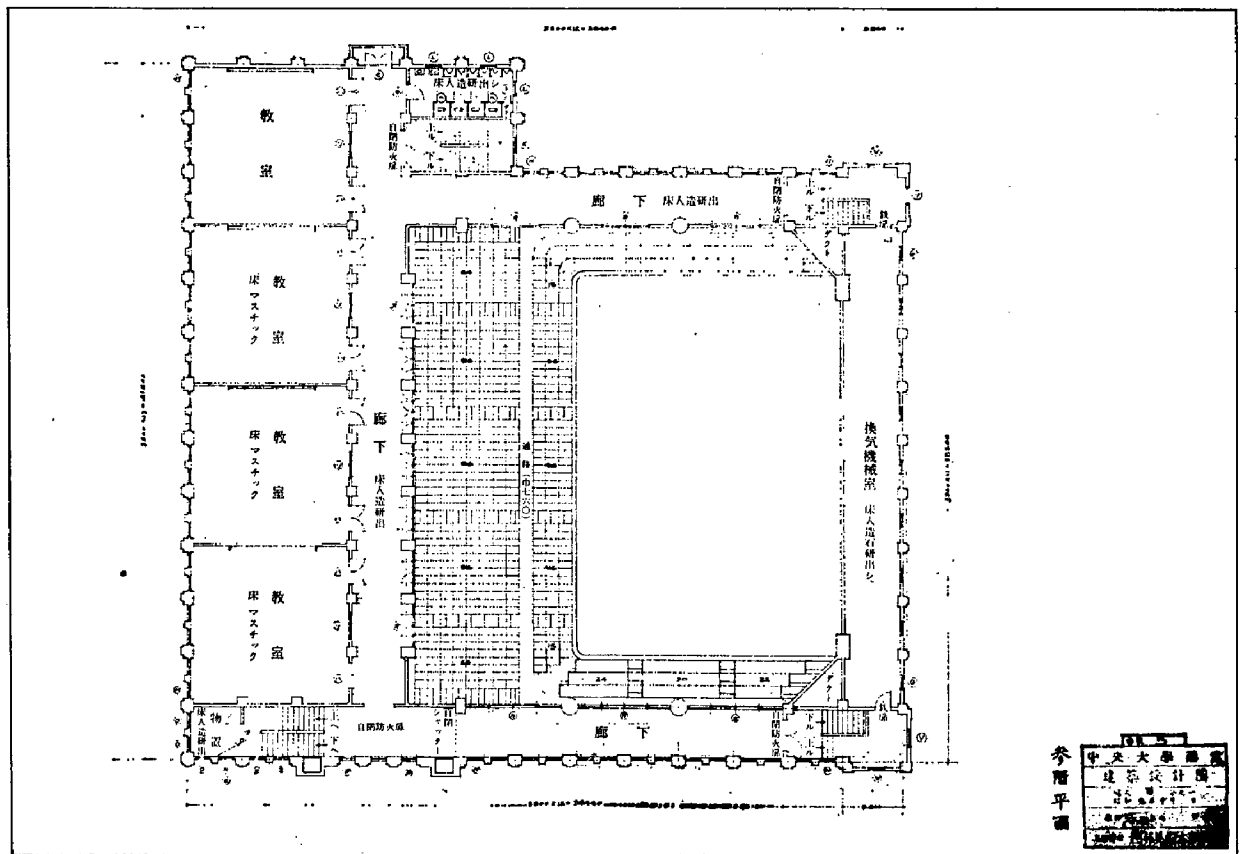
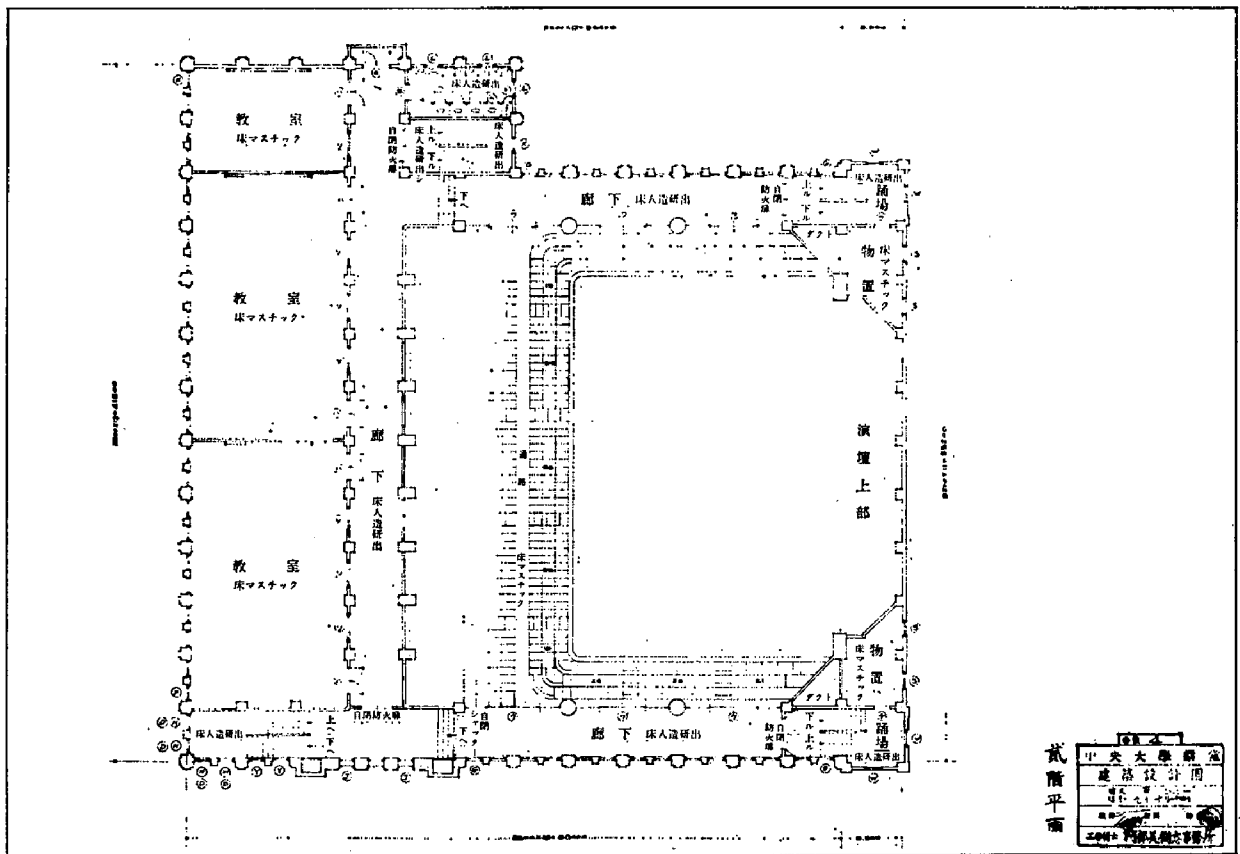
但九年度乃至拾参年度ノ五ケ年間ニ於ケル剰余金

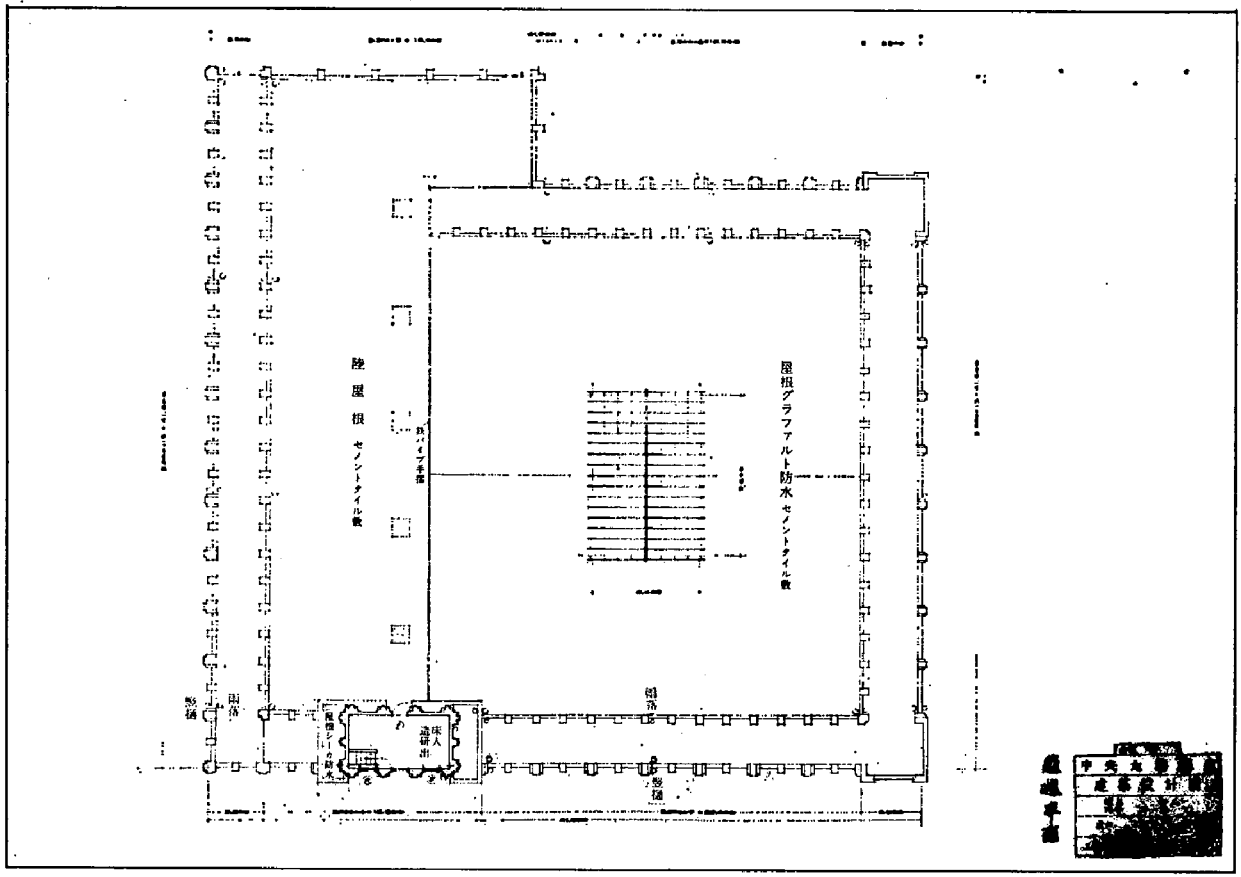
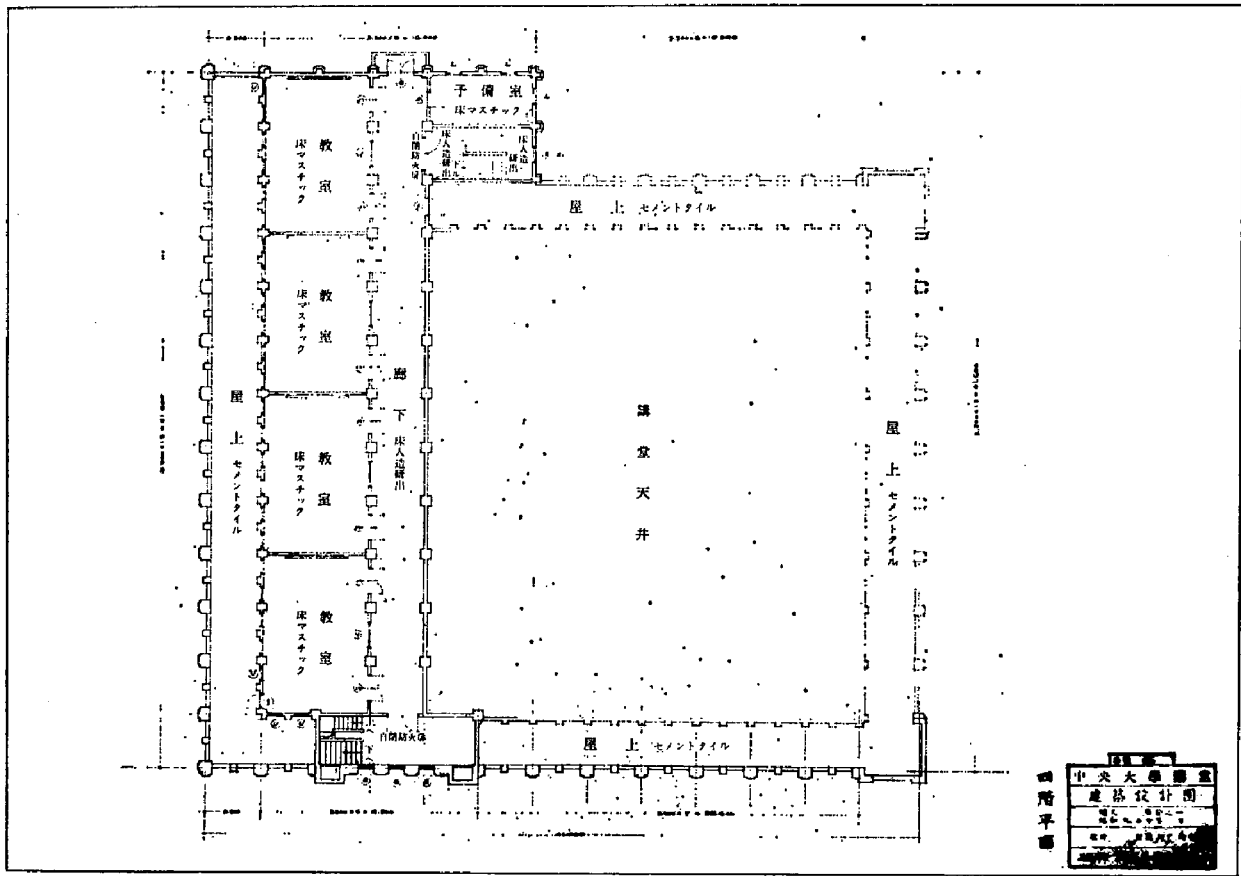
図面目次

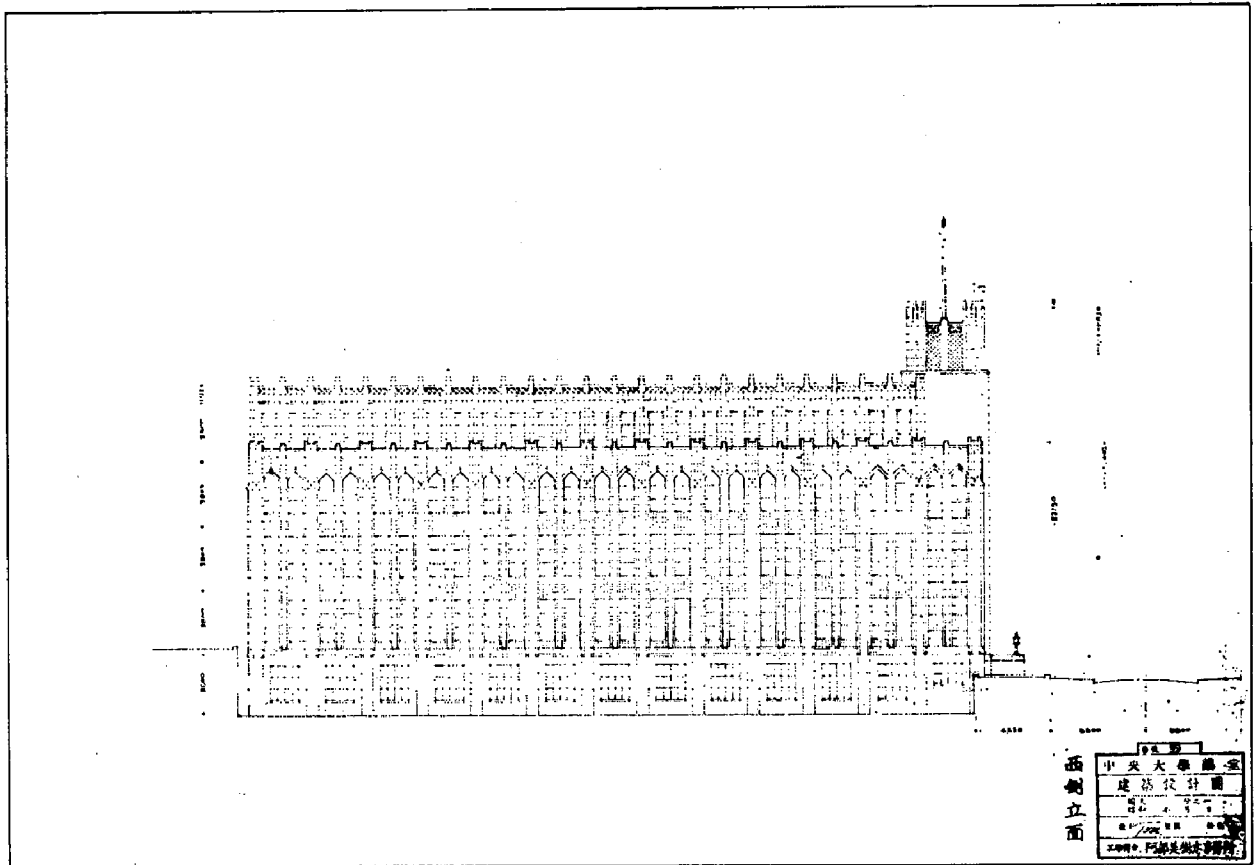
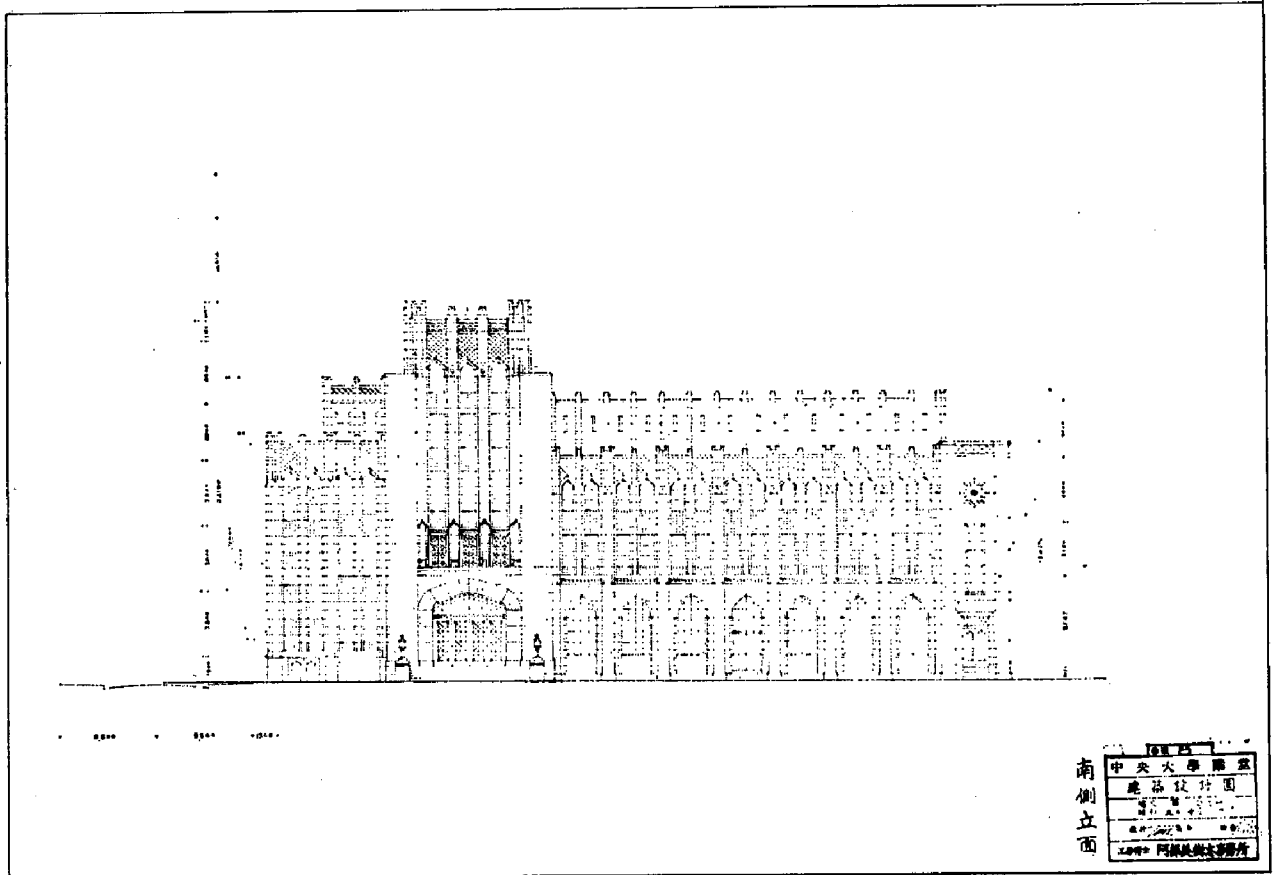
第壹号図	配置図
第貳号図	地階平面
第参号図	壹階平面
第四号図	貳階平面
第五号図	参階平面
第六号図	四階平面
第七号図	屋根平面
第八号図	南側平面
第九号図	西側平面
第十号図	北側平面
第十壹号図	東側平面
第十貳号図	縦断面
第十参号図	横断面其ノ一
第十肆号図	横断面其ノ二

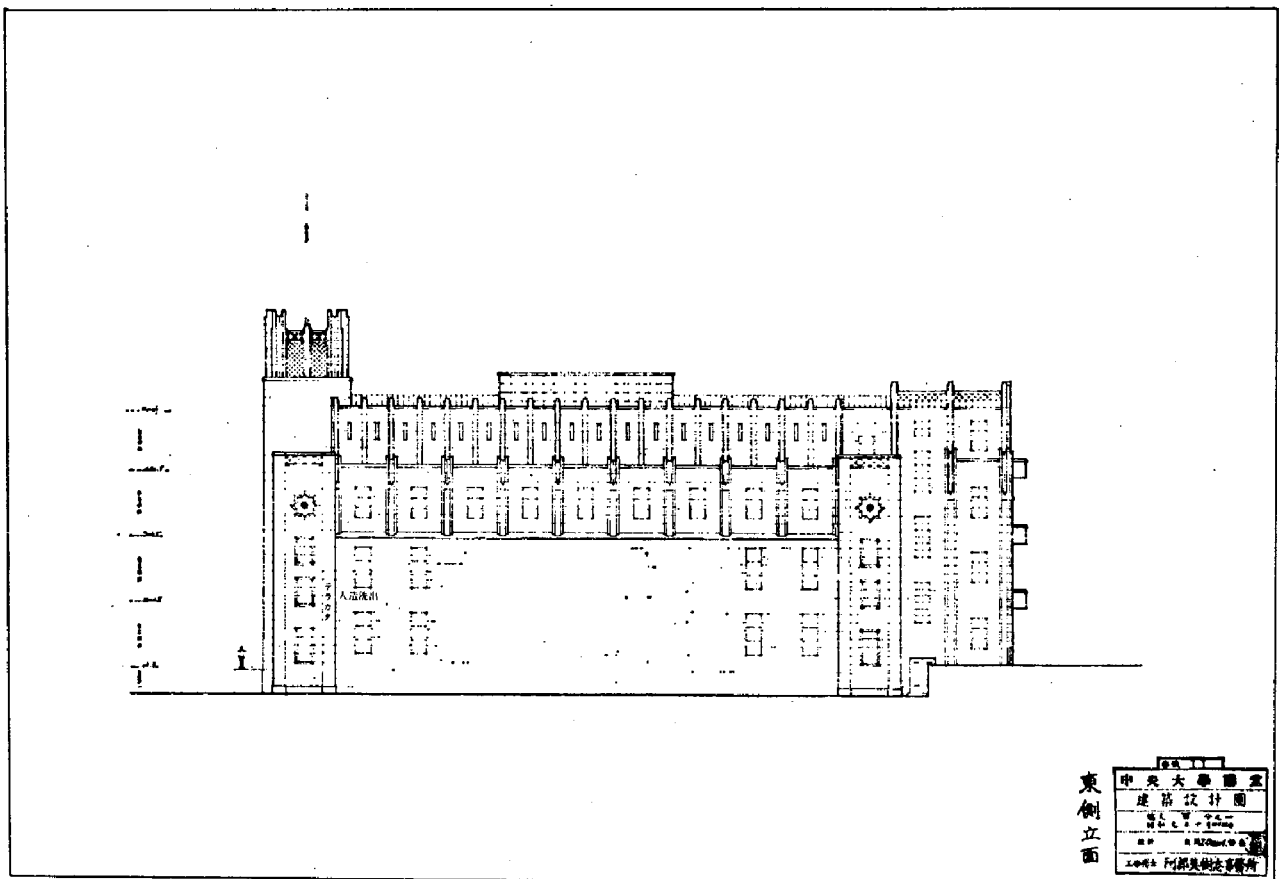
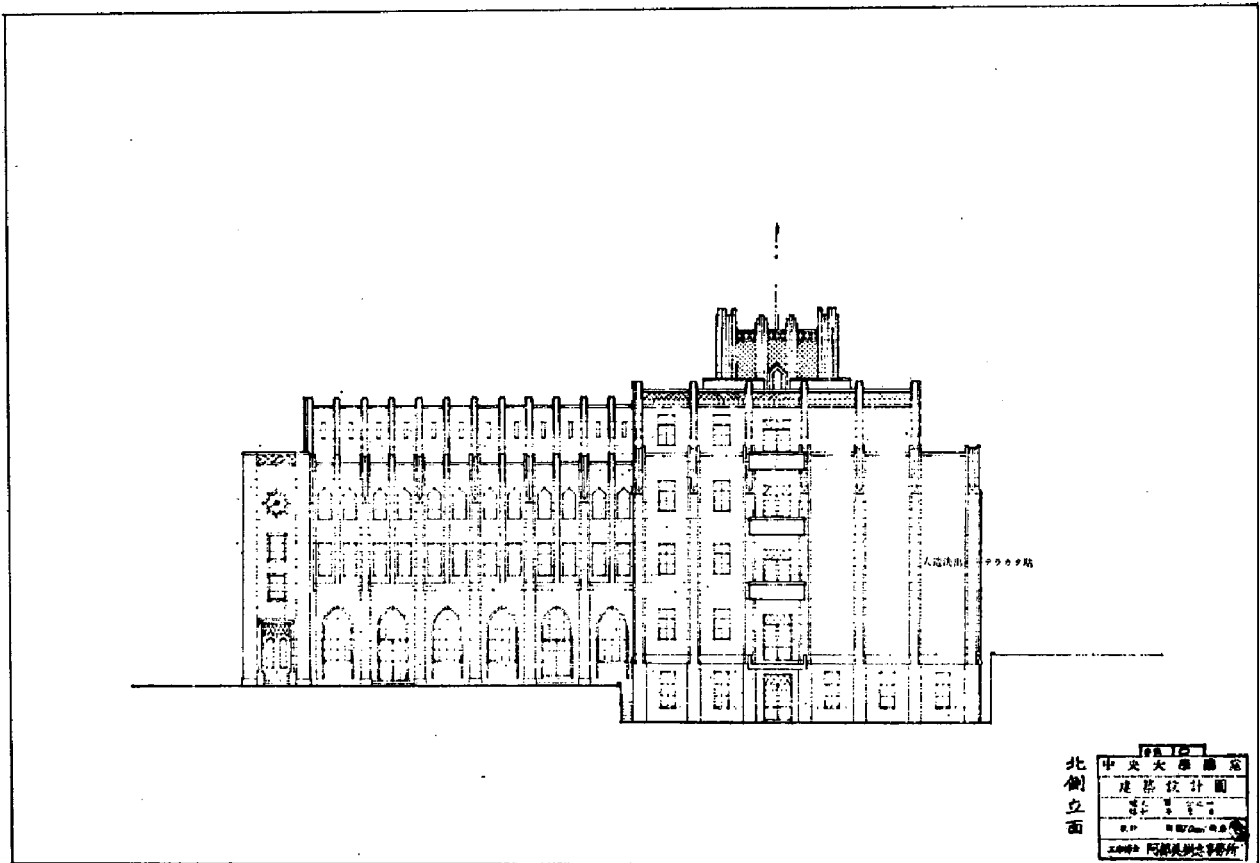


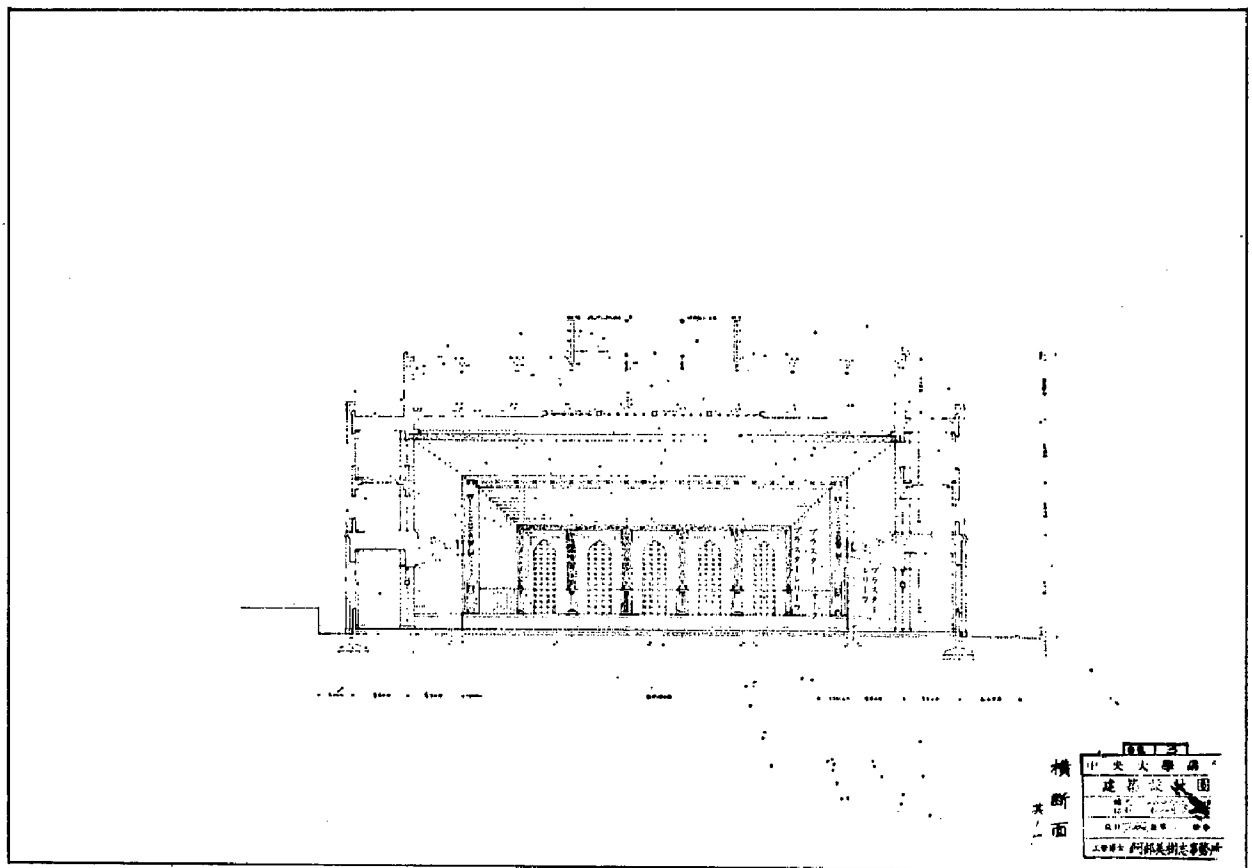
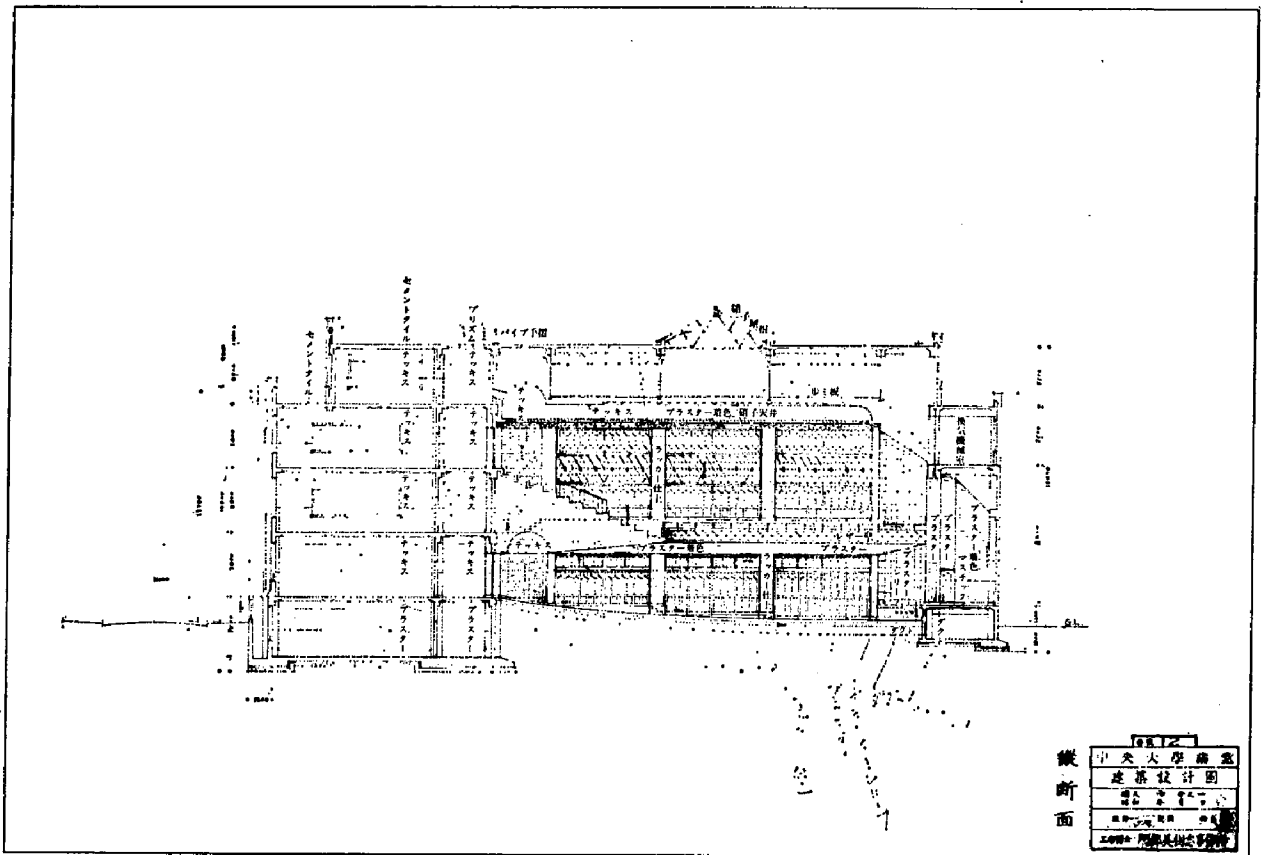


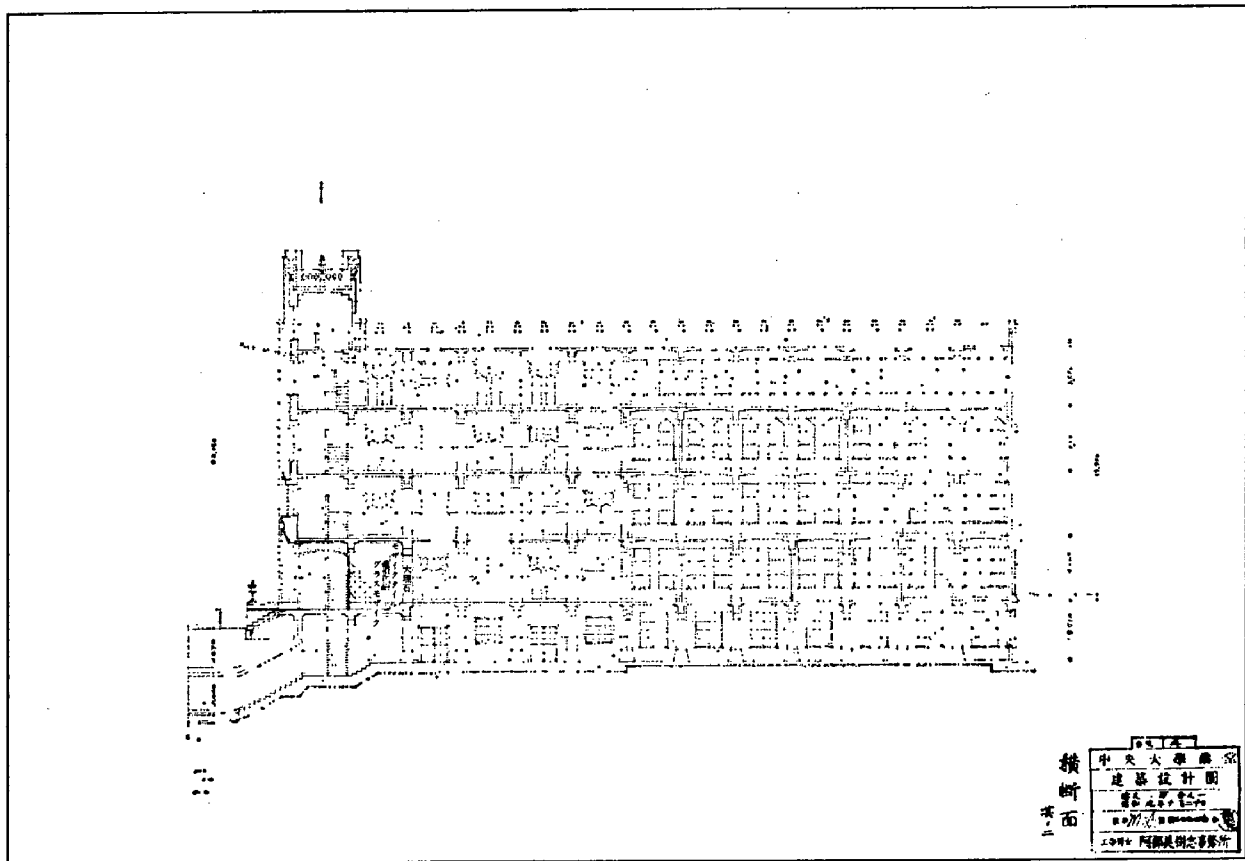












(表紙)

昭和九年拾月

設計者
工学博士

阿部美樹志

中央大学講堂 [及教室] 新築工事示方書

中央大学

中央大学講堂 [及教室] 新築工事示方書

一、講堂本館 鉄骨鉄筋混凝土造 新築 壹棟

四階建一部地階及塔屋附

此延坪数 五、〇四八・七三二平方米 (約壹千五百

式拾七面坪)

内訳

地階 五七〇・二二〇平方米

壹階 一、六〇九・四七八平方米

貳階 一、一七四・九〇一平方米

参階 一、二三一・五一七四平方米

四階 四三二・六八五三平方米

塔屋 二九・九三〇四平方米

外ニ

「ドライエリア」及階段 七七・六一七八平方米

鉄柵 八五・三二〇米 (延)

裏側土留擁壁 二四・八三〇米 (延)

玄関石階段

壹個所

式、参、四階バルコン

一〇・五六平方米

二、地下道

鉄筋混凝土造 新設 壹個所

幅 二・七三〇米 延長 一五・八五〇米

外ニ「パイプダクト」ヲ含ム

以上

仕様書目次

一 要項	一一 防水工事
二 総則	一二 木工事
三 仮設工事	一三 防音工事
四 基礎工事	一四 左官工事
五 鉄筋混凝土工事	一五 建具工事
六 鉄筋工事	一六 硝子工事
七 型枠工事	一七 雑金物及錆工事
八 鉄骨工事	一八 塗師工事
九 石及煉瓦工事	一九 雑工事
一〇 「タイル」及「テラカッタ」工事	二〇 排水工事

一、要項

イ、構造概要

一、基礎 玉石地形鉄筋混凝土造

二、身体 鉄骨鉄筋混凝土造

三、屋根 鉄骨鉄筋混凝土造「アスファルト」防水

四、地階床 「シーカ」防水

五、各階床 鉄筋混凝土造一階一部盛土普通混凝土

六、階段 鉄筋混凝土造

七、便所 水洗式

ロ、外部仕上

一、玄関 花崗石

二、塔 「テラカタ」

三、南面 根石花崗石三階迄「テラカタ」四階人造洗出

四、西面 一階ヨリ二階「テラカタ」地階及四階人造洗出

五、東北面 全部人造洗出

六、玄関出入口 鉄扉白「ブロンジング」仕上

七、窓 「スチーサッシュ ペイント」仕上

ハ、室内仕上表

名称	床	巾木	壁下部	壁上部	天井
地階	人造研出	人造研出	着 プラスタ 色	プラスタ	プラスタ
自転車置場	同	同	同	同	同
鉄砲置場	同	同	同	同	同
倉庫	同	同	同	同	同
物置	同	同	同	同	同
宿直室	敷 畳	寄 着 プラスタ 色	同	同	同
沓脱	人造研出	人造研出	同	同	同
ポンプ室	モルタル	モルタル	モルタル	モルタル	同
廊下	人造研出	人造研出	着 プラスタ 色	プラスタ	同
階段	同	同	同	同	同
空濠	防水モルタル	ナ	人造洗出	ナ	シ

請負者ハ契約後拾日以内ニ精密ナル工事工程表及施工計画
図ヲ提出シ監督技師ノ承認ヲ得ルモノトス

ハ、請負者及代理者

請負者ハ自身毎日現場ニ出頭シ全般ノ指揮ニ任スベキヲ原
則トスレモ万一差支アル場合ニハ工事実施ニ最モ堪能ニシ
テ充分経験ヲ有スル代理者ヲ現場ニ出務セシメ施工ノ順序
方法並ニ設備ニ関スル諸般ノ指揮従業者ノ配置督励等一切
ノ責任ヲ負ヒ工事ノ完全ニシテ円滑ナル進捗ヲ計リ毫モ遅
滞ナク迅速ナル竣工ヲ期スベキモノトス

但シ監督技師ニ於テ不適當ト認ムル代人及下請業者並ニ職
工等ノ従業ヲ禁止スルコトアルベシ此ノ場合請負者ハ敏速
ニ適當ナル代理者ヲ選定シ承認ヲ受ケタル後従業セシムル
モノトス

ニ、支給材料

本工程ニ要スル左記材料ハ支給スルモノトシ現場附近適當
ナル位置ニテ受渡スルモノナレバ其位置ヨリノ小運搬ハ請
負者ノ負担トス

セメント 身体工専用 全数

防水剤ロータス 同(地盤下「コンクリート」打用)

ホ、支給品保管

一旦交附シタル支給品ハ盗難火災湿気等ノ憂ナカラシムル
タメ完全ナル倉庫ニ貯蔵シ其保管ノ責任ハ一切請負者之レ
ニ任ズベシ若シ損害ヲ来セルキハ同格品以上ニシテ監督技
師ノ承認スル代品ヲ以テ速カニ弁償スベキモノトス

ヘ、材料検査

本工程ニ使用スル材料ハ図面及仕様書ニ依リ監督技師ノ檢
査ヲ受ケタル後之レヲ使用スルモノトス

但シ鉄筋材鉄骨材等監督技師ノ指定スル材料ハ公立試験場
ニ於テ試験ヲ為シ各規定以上ニ達シタルモノ、ミ使用シ得
ルモノトシ該試験表ハ監督技師ニ提出スルモノトス

尚之レニ要スル試験費用ハ請負者ノ負担トス

ト、設計図書上ノ疑義

本工程設計図及仕様書ニ明示ナキ部分又ハ疑義ノ点アルキ
ハ其都度監督技師ノ指示ニ依リ施工スルモノトス

チ、別途工事トノ連絡

電気工事、暖房、換気、衛生、給水、給湯、浄化装置等ノ
設備工事ハ建物工事ト併行ニ或ハ後ヲ追フテ着手スベキモ
ノナレバ建物工事施工者ハ各別途工事施工者ニ便宜ヲ与ヘ
常ニ協調ヲ保チ相互ノ工事工程ニ支障ナキ様最モ円滑ニ工
事ヲ進捗セシムルモノトス

リ、工事変更

工事変更ニ依リ数量ノ増減アル場合ハ見積明細書ノ単価ニ
依リ増減スルモノトス若シ見積明細書ニナキ場合ハ監督技
師ノ定ムル方法ニ従フモノトス

ス、作業用敷地

本工程施工ニ必要ナル各作業小屋現場事務所其他材料置場
等ノ当建築敷地内ニテ処理出来サル場合ハ夫々監督技師ノ
承認ヲ得テ建築地附近ニ之ヲ求メ借地料其他ノ費用ハ請負

者ノ負担トス

ル、危害防止

作業場ノ内外ヲ問ハズ従業者其他ニ危害ヲ及ボサミル様外周ハ外足代ニ金網張り其他ノ養生ヲ為シ工用機械器具ノ取扱ヒ及修理「エレベータータワー」「デレッキ」等ノ「ガイ」緊結動力ノ注意等夫々専門技術者若クハ熟練セル職工ヲシテ之レニ当ラシメ些少モ危険ナカラシメ又作業小屋及場内ノ火氣ニ注意ヲ払ヒ必要ニ応ジ夜警ヲシテ巡回セシムルモノトス

オ、損害補償

本工事中不注意又ハ施工上ノ欠陥ニヨリ道路又ハ隣接工作物ヲ毀損シ通行者従業人等ニ損害ヲ生セシメタル場合ハ請負者ノ自費ヲ以テ之レヲ解決シ其補償上ノ全責任ヲ負フベキモノトス

ワ、用水及電力設備

水道水及電力ハ工事着手前ニ工事ノ規模ニ適応スル容量ヲ設ケ併テ飲料水灯火電灯共設備ナスモノトス

カ、消火設備

工事場ノ主要ヶ所ニ各階用消火設備ヲ為シ不測ノ災害等ニ遺憾ナカラシムルモノトス

〔三、仮設工事〕以下は省略

(欄外注記1)

「收受戌学第九六七四号」「判決十一月十三日」「施行十一月十三日」

(欄外注記2)

「判決一月十日」「施行一月十一日」

(欄外注記3)

「完結」

(欄外注記4)

「東京府收受・昭和九年十一月六日・戌学第九六七四号」

(欄外注記5)

「東京府收受・昭和九年十一月六日」

〔昭和九年 学務課 私立学校 第一種 冊の七十七 317 E.8 13〕